

生活に与える影響

交通集中（ジャンクション・インターチェンジ周辺）

外環を利用する自動車による交通集中は、インターチェンジ周辺の道路で懸念されます。インターチェンジの接続が考えられる道路は、現在、混雑している状況（混雑度が0.8～2.1）です。

	世田谷通り	国道20号	東八道路	青梅街道	目白通り
車線数	2車線	4車線	2車線 (都計4車)	4車線	4車線
交通量	28,147台/日	48,797台/日		50,676台/日	43,469台/日
大型車混入率	17.6%	19.9%		16.4%	15.9%
混雑度	2.05	1.11		1.33	1.27

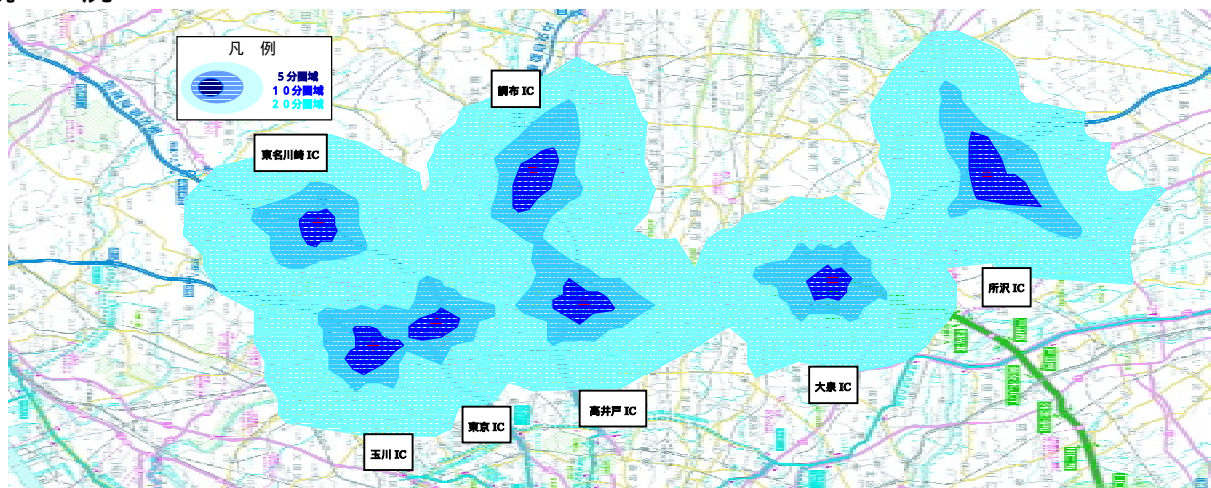
表 インターチェンジ接続道路の交通状況

インターチェンジがある場合、接続道路のうち外環の内側で交通量は減少（約12,000台/日～3,000台/日）し、外側で交通量が増加（約1,000台/日～8,000台/日）すると考えています。

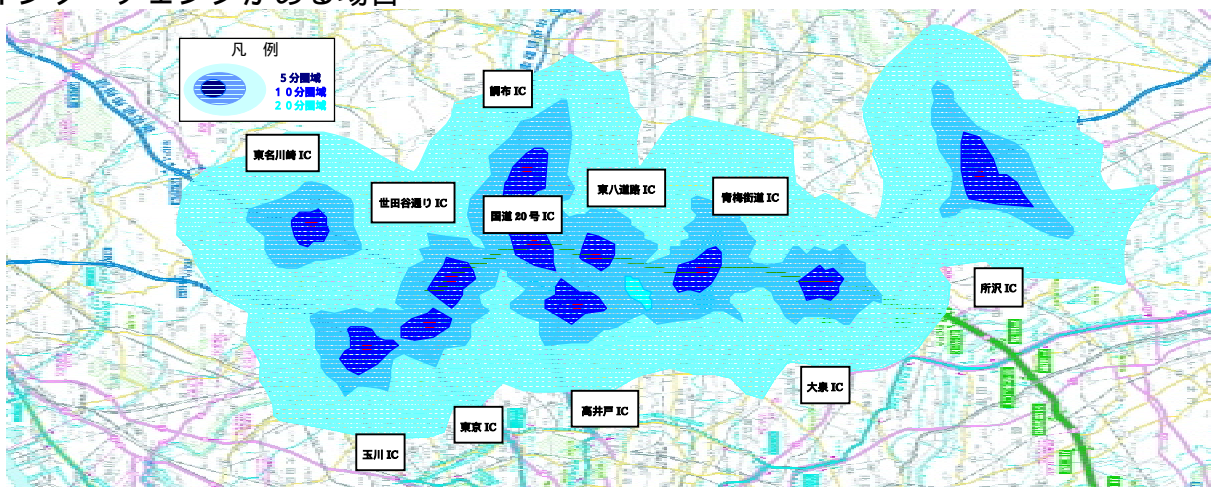
これは、外環がない場合に郊外から環状8号線等を通行していた自動車が外環を利用することによる影響であると考えています。

インターチェンジまでのアクセス時間圏域

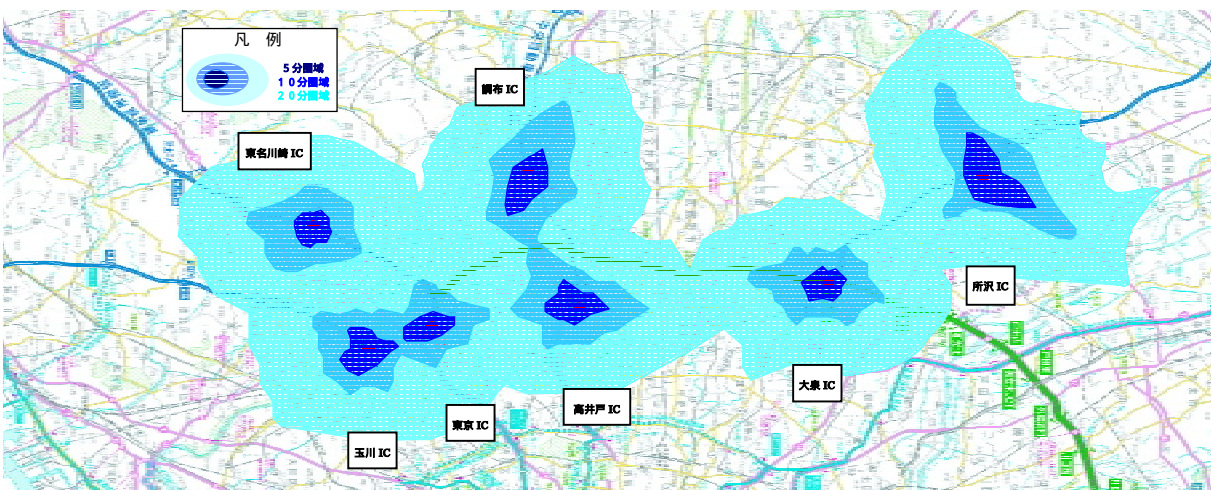
< 現 況 >



< インターチェンジがある場合 >



< インターチェンジがない場合 >



インタ - チェンジまでのアクセス時間圏域の計算

主要地方道以上を対象に道路交通センサス（H11）の旅行速度（ピーク時）を用い、一般県道以下主な路線については、旅行速度を16km/hと設定し、5分、10分、20分毎の範囲を計算したものです。

時間圏域は、の結果からプロットされたポイントを単純に結び、示した概ねの範囲です。
外環供用による一般道の色速度変化は考慮していません。